

高砂だより新館 2017・5月

ベルモールの桜並木



広琳寺のしだれ桜



5月の予定



- 4日 リムジカ (午後2時)
- 9日 理容 (午前中)
- 11日 長谷川歯科往診 (午前中)
- 12日 ホーム喫茶 (午後2時)
- 16日 傾聴わらく (午前中)
- 18日 リムジカ (午後2時)
- 25日 民謡いずみ会 (午後1時45分～)
- 26日 茶道クラブ (午前中)



新館家族懇談会 & お茶会

6月4日午後2時より

家族懇談会 & お茶会を予定しております

詳しい時間詳細が決まり次第、
お知らせいたします。

「むせはしゃべることの代償」

唾液を誤嚥して、真っ赤な顔で涙を流して咳き込むことがある。この誤嚥が、認知症の終末期では大きな問題となってくる。食べ物や唾液を誤嚥すると肺炎を引き起こす。認知症の方の死因に多い誤嚥性肺炎。この誤嚥性肺炎は、人が言葉をしゃべる機能と密接に関係している。赤ちゃんは鼻で呼吸しながら母乳を飲み込むことができる。これは空気の通りに道が、食物の通り道と交差しているから誤嚥しない。しかし、成長すると共に咽頭の部分が下がり、言葉を発することができるようになる。すると空気と食物が同じところを通るようになり道が交差しなくなる。認知症になると、脳のコントロール機能が失われ、口から咽頭の動きが悪くなって、誤嚥が生じる。言い方は悪いかもしれないが、認知症終末期に嚥下機能が低下して、誤嚥性肺炎で死亡することは、人間が言語という素晴らしい機能を手に入れた代償であろう。認知症の終末期は、意思表示も難しくなる。口から食べられなくなったときに、胃に穴をあけてまで食べ物を注入して延命することを望むかどうか、元気なうちから意思表示しておこう。人生観はそれぞれ。だからこそ元気なうちから「終末期にどこまでしてほしいのか」伝えておくことが望まれる。